

令和3年度 指定管理者モニタリングレポート

施設名	下関市菊川総合交流ターミナル
所在地	下関市菊川町大字上岡枝766番地1
指定管理者	団体名称 菊川町まちづくり株式会社
	代表者 代表取締役 服部 太一郎
	団体所在地 下関市菊川町大字上岡枝766番地1
モニタリングの実施方針・方法等	本施設の管理運営業務の確認に当たっては、管理運営状況を事業報告書、実地調査、利用者のアンケート、指定管理者へのヒアリング等により把握しました。その後、指定管理者の選定に用いた選定基準等に示された項目ごとに、次第のとおり、具体的な業務の実施状況等についての確認結果をコメントしたうえで、「モニタリングの総合コメント」及び「今後の業務改善に向けた考え方」を記載しました。
担当部課 (問合せ先)	菊川総合支所地域政策課
	TEL : 083 - 287 - 1115
	E-mail : kgchiiki@city.shimonoseki.yamaguchi.jp

■ 目標値の達成度

□指標：施設の利用者数 (単位：人)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	合計
目標値	196,900	215,300	215,800	211,700	193,000	1,032,700
実績値	216,780	211,252	212,253	167,451	171,901	979,637
差	19,880	△ 4,048	△ 3,547	△ 44,249	△ 21,099	△ 53,063

平成29年度は実績値が目標を上回っていましたが、平成30年度から減少に転じています。令和2年度より新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け大幅な減少となっていますが、令和3年度は実績値が増加しており、指定管理者制度の導入目的は一定レベルで達成されているが、目標値に達することはできなかった。各年度での目標を確実に達成することが指定管理期間中の目標達成につながるものと考えますので、今後も業務改善に努め、提供するサービスの質を向上させることにより、一層の利用者の獲得に努めることを求めます。

■ モニタリングの総合コメント

本施設の設置目的は、農林水産物の展示販売とこれらの産物を活用した郷土料理の提供、観光、イベント情報、案内情報の受発信を通じて都市と農村の交流を促進するもので、その管理運営の実施状況については、施設の設置目的を達成しながら、指定管理者制度導入の目的である市民サービスの向上を果たしています。また、施設の維持管理、業務の実施、事業の実施についても適切に行われており、総合的に判断して良好と評価します。

業務内容については、施設利用者への観光情報や道路情報の提供、情報紙やSNS等を活用した情報発信、地元の特産品を活用したイベントを行うなど、利用者と地元をつなぐイベントの工夫がみられました。今後も指定管理者の特色を活かした企画運営を行い、利用者の拡大を図るよう求めます。

収支については、新型コロナウイルス感染症拡大の中、指定管理者の様々な経営努力はみられるが、適切とはいえない状況である。厳しい社会情勢の中、サービス向上に努め、利用者数の増加がみられ健闘していますが、引き続き、さらなる努力や工夫が継続されることを期待します。

■ 今後の業務改善に向けた考え方

本年度以降も、本施設の設置目的を推進するため、業務のさらなる向上充実を図り、利用者が安心して利用できるような環境づくりを求めます。地域に根ざした施設として、地域と連携したイベントを開催し、年間を通じて利用者の増加に努めるよう求めます。また、地元農産物を使用した特産品開発の取組を一層強化するよう求めます。

基本的な考え方(施設の性格・目的等との合致、市民の平等な利用の確保、施設の効用発揮)

合目的性・公平性・効果性

施設の設置目的に沿った実施方針に基づき適切に運営していました。施設運営や利用者への対応については、市民が公平・平等に利用できるよう努力していました。

業務内容

機能性・独創性(事業への具体的な取組み方)

情報紙やSNSによる情報発信等を行うとともに、店内フリーWi-Fiを設置し、利用者の利便性の向上を図りました。

地域内生産者や出荷者団体等との協力体制により、安全で新鮮な物産品の安定的な供給に努めました。

責任性・実行性(施設の運営体制や組織)

定期的にミーティングが行われ、業務の問題点や改善点などの情報共有が図られました。新型コロナウイルス感染症対策として、消毒液の設置、定期的な換気、店内でのソーシャルディスタンスの確保を行うなど感染防止に努めました。

明瞭性・規律性(適正な事務や経理)

利用料金などの収入、施設管理費等の支出について適正に処理していました。経理関係書類、施設の利用に関する書類、保守点検等に関する書類は整理保管していました。

安全性(安全管理、緊急時等の対応)

利用者の安全を確保するための施設の保守点検、修繕等も適切に実施しており、施設の不具合等は適宜市へ報告が行われています。

事故等が発生した場合は、迅速かつ適切な対応がとられています。

社会性(環境等への配慮)

不要箇所の照明の消灯、冷暖房温度の省エネ設定の徹底等について実施していました。

事業収支

経済性

支出について、昨年度比で増加しています。収入については、県からのコロナ支援金等を受けるとともに、利用者の増加に伴い一定の改善があったが、引き続き経営改善に努めるよう求めます。

団体の経営状態

経営の健全性

提出された財務諸表等を分析した結果、今後の利用者の推移によっては、運営資金不足を生じる可能性があることから、さらなる利用者の獲得に努めることを求めます。

令和4年度 指定管理者モニタリングレポート

施設名	下関市菊川総合交流ターミナル
所在地	下関市菊川町大字上岡枝766番地1
指定管理者	団体名称 菊川町まちづくり株式会社
	代表者 代表取締役 服部 太一郎
	団体所在地 下関市菊川町大字上岡枝766番地1
モニタリングの実施方針・方法等	本施設の管理運営業務の確認に当たっては、管理運営状況を事業報告書、実地調査、利用者のアンケート、指定管理者へのヒアリング等により把握しました。その後、指定管理者の選定に用いた選定基準等に示された項目ごとに、次葉のとおり、具体的な業務の実施状況等についての確認結果をコメントした上で、「モニタリングの総合コメント」及び「今後の業務改善に向けた考え方」を記載しました。
担当部課 (問合せ先)	菊川総合支所地域政策課
	TEL : 083 - 287 - 1115
	E-mail : kgchiiki@city.shimonoseki.yamaguchi.jp

■ 目標値の達成度

□指標：施設の利用者数 (単位：人)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
目標値	193,000	190,500	185,700	—	—
実績値	171,901	181,593	—	—	—
差	△ 21,099	△ 8,907	—	—	—

平成30年度以降は実績値が目標値を下回っています。令和2年度から新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け大幅な減少となっておりますが、令和4年度は実績値が増加しており、指定管理者制度の導入目的は一定レベルで達成されているものの、目標値に達することはできなかった。各年度での目標を確実に達成することが指定管理期間中の目標達成につながるものと考えますので、今後も業務改善に努め、提供するサービスの質を向上させることにより、更なる利用者の獲得に努めることを求めます。

■ モニタリングの総合コメント

本施設の設置目的は、農林水産物の展示販売とこれらの産物を活用した郷土料理の提供、観光、イベント情報、案内情報の受発信を通じて都市と農村の交流を促進するもので、その管理運営の実施状況については、施設の設置目的を達成しながら、指定管理者制度導入の目的である市民サービスの向上を果たしています。また、施設の維持管理、業務の実施、事業の実施についても適切に行われており、総合的に判断して良好と評価します。

業務内容については、施設利用者への観光情報や道路情報の提供、情報紙やSNS等を活用した情報発信、地元の特産品を活用したイベントを行うなど、利用者と地元をつなぐイベントの工夫がみられました。今後も特色を生かした企画運営を行い、利用者の拡大を図るよう求めます。

収支については、指定管理者の様々な努力により前年度に比べ改善は図られているものの、適切とはいえない状況である。厳しい社会情勢の中、サービス向上に努め、利用者数の増加がみられることから、引き続き、更なる努力や工夫が継続されることを期待します。

■ 今後の業務改善に向けた考え方

本年度以降も、本施設の設置目的を推進するため、業務の更なる向上・充実を図り、利用者が安心して利用できるような環境づくりを求めます。地域に根ざした施設として、地域と連携したイベントを開催し、年間を通じて利用者の増加に努めるよう求めます。また、地元農産物を使用した特産品開発の取組を一層強化するよう求めます。

合目的性・公平性・効果性

施設の設置目的に沿った実施方針に基づき適切に運営していました。施設運営や利用者への対応については、市民が公平・平等に利用できるよう努力していました。

機能性・独創性(事業への具体的な取り組み方)

情報紙やSNSによる情報発信等を行うとともに、店内フリーWi-Fiを設置し、利用者の利便性の向上を図りました。
地域内生産者や出荷者団体等との協力体制により、安全で新鮮な物産品の安定的な供給に努めました。

責任性・実行性(施設の運営体制や組織)

定期的にミーティングが行われ、業務の問題点や改善点などの情報共有が図られました。
新型コロナウイルス感染症対策として、消毒液の設置、定期的な換気、店内でのソーシャルディスタンスの確保を行うなど感染防止に努めました。

明瞭性・規律性(適正な事務や経理)

利用料金などの収入、施設管理費等の支出について適正に処理していました。
経理関係書類、施設の利用に関する書類、保守点検等に関する書類は整理保管していました。

安全性(安全管理、緊急時等の対応)

利用者の安全を確保するための施設の保守点検、修繕等も適切に実施しており、施設の不具合等は適宜市へ報告が行われています。
事故等が発生した場合は、迅速かつ適切な対応がとられています。

社会性(環境等への配慮)

不要箇所の照明の消灯、冷暖房温度の省エネ設定の徹底等について実施していました。

経済性

支出については、昨年度比で減少しており、経費削減を図っています。収入については、利用者の増加に伴い、前年度比で増加しているものの、依然として厳しい収支状況であるため、引き続き経営改善に努めるよう求めます。

経営の健全性

提出された財務諸表等を分析した結果、今後の利用者の推移によっては、運営資金不足を生じる可能性があることから、更なる利用者の獲得に努めることを求めます。